



稲積中だより

学校教育目標 「人間性豊かな生徒の育成」

たくましい心身 豊かな心 高い知性 健全な社会性

<http://www.inazumi-j.sapporo-c.ed.jp>

令和6年10月11日

第10号

札幌市立稲積中学校

発行

「Magic な1日を」

生徒会部部長 塚本真澄

今から5年前の稲積中学校の学校祭は、展示部門もあり、昼食はPTAの役員の協力のもとバザーでパンやおにぎりなどを食べるというスタイルでした。それから新型コロナウイルス感染症拡大やインフルエンザによる学級閉鎖により、毎年、学年ごとの発表やオンライン視聴、保護者公開中止など形式を変えながら開催してきました。そして今年度、5年ぶりに全校生徒が集まって最初から最後まで全部門が発表できる1日となりました。そして保護者の方々にも制限なくご覧いただくことができました。



体育館中に響いた生徒たちの歓声と拍手がとても心地よく、やはり観客とともに一体感をもってステージ発表は作られるものだと思えて感じました。また、玄関や廊下、階段の装飾もワクワクさせるような素晴らしいものばかりでした。

今年度のテーマは『Magic』。上手にやりたいのにうまくいかないこと、仲良くしたいのにできなかったこと、我慢したこと、悲しかったこと。そんな思いを抱きながらも日々頑張っている中学生のみんなに、今日だけはそんな思いを癒し楽しく過ごす Magic な1日を過ごしてもらいた

い！という願いを込めて実行委員会が決めました。エンディングのくす玉と風船の演出では、大盛り上がりでのカウントダウンと歓声が体育館中に響き渡り、一人ひとりの生徒がこの学校祭に参加し、楽しもうとしていました。今まで頑張ってきたからこそ、その一瞬の感動を分かち合い共有しともに喜び合えた、あのひと時を過ごすことができたのだと思います。私は、この感動の共有こそ、学校行事での本質的な価値であると思っていますので、今年の学校祭を作り上げた稲積中学校の生徒の皆さん一人ひとりを誇り思います。

この学校祭の開催するにあたり、保護者の方々には衣装などの協力や温かい励ましの言葉をいただきました。ご理解とご協力をどうもありがとうございました。



「学校祭を終えて」

一年五組 生徒

僕が学校祭を終えて思ったことを発表します。学校祭の準備は装飾Bで、準備がすごく難しくて、間に合うかなと思っていただけ、ギリギリ間に合って達成感があってすごく気持ちよかったです。1年生のクオリティーもすごかったけど、2年生と3年生のクオリティーの方が何十倍もすごくてさすが先輩だなと思いました。

小学校の頃は学校祭なんてなくて、初めてこういう体験をしたのですがすごく楽しかったです。僕が学校で行われたことの中で一番楽しかったです。

僕にとって学校祭は、年に一度の大大大イベントなので、僕が2年生や3年生になったら後輩に学校祭の楽しさや、面白さを実感させてあげたいなと思いました。

「初めての学校祭を終えて」

一年六組 生徒

6組は玄関のガラス扉4枚を担当しました。準備では、前日までに貼れるようみんなで頑張って装飾を作りました。ふじの花やランタンや雪の結晶などを作って玄関のドアに貼りました。全部貼って見たらとてもすばらしい作品になりました。

また、他の学級の装飾では、3年生はトランプのイラストで飾っているものとステンドグラスをライトで照らしているものがとても工夫されていてすごいと思いました。2年生は、階段の形に切ってそろえるのがすごいのと、ミッキーのモザイクアートは、細かいところをていねいに作っていたところがすごかったです。1年生は、装飾Aでは玄関のステンドグラスがカラフルで、装飾Bは、天井飾りをぶら下げて工夫しているのがよかったです。

当日の発表では、1年生の演劇は見て幸せになり、パフォーマンスは、神業チャレンジがすごかったです。2年生の演劇は昔話の人たちがいてすごいのと、ステパは「スッキリ」が一番面白かったです。3年生の演劇は感動しました。

初めての学校祭は、レベルが高くてとても驚きました。



「学校祭の音」

二年一組 生徒

学校祭準備が始まると普段聞こえない音がする。流行の曲や大人数で話し合う声。先生だけではなく、生徒が指示を出す声やダンスをしている足音。みんなが、一生懸命楽しそうに、一つのことに取り組む音。

私は装飾チームだった。階段に貼る大きな絵。三枚の中の一つに、私の提案したデザインが採用された。たくさんの人が自分の絵を見てくれる、という思いから、絶対に良いものをつくろうと張り切った。

当日の活動はなかった。だから、私たちがみんなに音を届けるのは難しい。そのかわり、自分たちが作った装飾を見た人が「すごい」「きれい」と声を上げてくれるように頑張ろうと思った。私にできるのは、みんなが声を出してくれるようなものをつくること。自分の出せる音はそれだと思う。



「学校祭を終えて」

三年三組 生徒

今年の学校祭はテーマ「Magic」に合ったとても素晴らしいものとなりました。

自分は生徒会役員として学校祭の運営や幕間、エンディングを行ってきましたが、この学校祭を最高な一日にしてくれたのは全校生徒だと思いました。なぜなら、当日に頑張ってくれたことはもちろん、準備期間に個人個人ができる限りのことをして協力したり、時には上手くいなくて工夫を重ねたりなど、全員が全員のために何か行動を起こし、努力していたと感じたからです。

この学校祭を通して、生徒一人一人が「協力し合う楽しさ」

を感じることができたのではないのでしょうか。まるで「Magic」がかっているかのように笑顔が絶えず全員が一つになっていました。これからは今年の学校祭のように協力し合う場面では楽しさを忘れず、何事も特別なものにしていきたいです。

